

いちご・促成（品種：さちのか）

安房農業事務所

1 地区名

館山市安布里

2 栽培戸数、面積、収穫量又は出荷量、出荷先又は販売方法

- (1) 栽培戸数 1戸
- (2) 栽培面積 7.5 a
- (3) 収穫量又は出荷量 3.8 t (5.0 t / 10 a)
- (4) 出荷先又は販売方法

館山いちご狩りセンターで観光いちご狩りとお土産販売による直売を行っています。また、いちご狩り期間外・収量の多い時期は地元市場へ出荷しています。

3 ちばエコ基準達成状況

区 分	実施状況	ちばエコ基準
化学合成農薬（成分回数）	18回	21回
化学肥料（窒素分量）	4.2kg/10a	18.5kg/10a

4 事例のあらまし

館山市において、いちごは主に観光・直売で販売されており、安房地域の産業をけん引する品目となっています。

本事例農家は、「館山市いちご組合」に所属し、組合内では最年少の若い経営主です。12月から地元市場へ出荷を開始し、1月から5月初めまで主に観光いちご狩りによる直売を行っています。なお、平成20年度に「エコファーマー」の認定を受け、環境にやさしい栽培に取り組んでいます。

5 背景・動機

館山市では、温暖な気候を生かして昭和56年から観光いちご狩りが始まり30年の歴史を数える伝統的な産業となっています。館山市のいちご生産者で構成される「館山市いちご組合」は現在13名が所属し、そのうち事例農家を含む9名が「館山いちご狩りセンター」を共同運営し、約3haの規模で観光農業に取り組んでいます。残る4名の組合員も観光いちご狩りの期間中は、同センターでお土産用のいちごを販売しています。

観光客のニーズを把握するためにアンケートを実施し、結果を分析して観光客の要望に応えた清潔なトイレの設置や、大果で食味の良い品種を導入しました。また、減農薬・減化学肥料栽培へのニーズに応えるため、生産者は環境にやさしい栽培を行って観光客へのさらなるPR材料とし、観光客に農

薬を気にせず思い切りいちごを頬張って欲しいと考えました。これが、取り組みの動機です。

以前より太陽熱消毒や有機質肥料を用いて栽培していたため、平成20年度に組合員全員が既存の栽培方法で「エコファーマー」の認証を受けることができました。しかし、「ちばエコ農業」については、化学合成農薬の散布回数が課題となり、既存の栽培方法ではちばエコ基準の「化学合成農薬成分数21回」をクリアするのは困難でした。そこで、まず本事例農家が新たな農薬削減技術に取り組み、「ちばエコ農業」に挑戦することとなりました。



組合での合同ほ場巡回



ちばエコ栽培のいちご

6 栽培方法

(1) 土づくり

本ぼでの栽培は高設栽培で行い、軽石やヤシガラを使った培土は活活培土2号を用いています。昨年度の栽培が終了すると残さを片付け、太陽熱消毒を行った後、培土を800kg/10a補充しました。

(2) 育苗

育苗中の病害虫、特に炭そ病を防ぐため、地面から30センチ以上の高さに棚を設置しかん水チューブを通して、泥はねを防止しました。また、苗同士の間隔は広くとり、こまめに葉かきを行い、循環扇を用いて湿気がこもらないようにしました。

育苗中の農薬散布は、適期にローテーション散布を行いました。また、定植直前に防除を行い、本ぼに病害虫を持ち込まないように心がけました。

(3) 本ぼでの管理

本ぼで一番困っていた病気はうどんこ病でした。うどんこ病は高湿度で発生しまん延します。そのため温湿度計を設置し、ヒートポンプを用いて湿度の高くなる夜間から明け方にかけての湿度を20～40%に抑えました。

しかし、奇形果が多く発生し、ミツバチの働きが悪くなっていることが考えられたので、1月上旬でヒートポンプによる除湿は中断しました。

(4) 追肥

高設栽培の肥培管理は機械制御で行いました。それに加えて、日々植物体を観察して必要な時期に追肥を行いました。

(5) 病虫害防除

ヨトウムシ類の発生がやや多めでしたが、実証ほでは適期防除を行ったため大きな被害はありませんでした。ヒートポンプによる環境制御を中断した後、うどんこ病が発生しましたが、化学合成農薬に含めない農薬を用いてローテーション散布することで、まん延を抑えることができました。

ア 栽培管理

作業名	実施年月日
前作収穫終了	平成22年5月31日
耕起	7月1日
定植	9月20日
病虫害防除	9月13日
収穫開始	12月20日
収穫終了	平成23年5月30日

イ 使用資材

(ア) 土づくり・施肥等

(10aあたり)

使用銘柄 (N:P:K)	実施年月日	施用量	全N	化学N
活活培土2号	平成22年9月1日	800kg	—	—
ポリフィード2号(19:19:19)	平成22年10月4日	0.8kg	0.2kg	0.2kg
NアップG-I(6:6:6)	平成22年10月12日、 11月9日、12月29日	25.0kg	1.5kg	1.5kg
ランセットN(6:3:1)	平成22年11月21日～ 11月25日、12月1日	53.3kg	3.2kg	1.5kg
ペンタキープV(9.5:0:0)	平成22年11月21日、 11月23日～11月25日、 12月1日	0.3kg	0.03kg	0.01kg
NアップG-II(10:5:5)	平成22年11月23日	8.3kg	0.8kg	0.8kg
いきいきK(10:0:34)	平成22年12月2日、 12月15日	2.2kg	0.2kg	0.2kg
合 計			5.9kg	4.2kg

(イ) 病害虫・雑草防除等

使用農薬	対象病害虫	実施年月日
ダイアジノン SL ゴル	コガネムシ類幼虫	平成 22 年 9 月 13 日
モレスタン水和剤	うどんこ病	10 月 6 日
コテツフロアブル	ハスモンヨトウ	10 月 7 日
ディプテレックス乳剤	アブラムシ類	10 月 7 日
カネマイトフロアブル	ハダニ類	10 月 13 日
アフアーム乳剤	ヨウムシ、ハスモンヨトウ	10 月 13 日
アフエットフロアブル	うどんこ病	10 月 14 日
※ポリオキシシン AL 水和剤	うどんこ病	10 月 22 日
プレオフロアブル	ハスモンヨトウ	11 月 2 日
ダニメツフロアブル	アブラムシ類	11 月 2 日
ウララ DF	アブラムシ類	11 月 2 日、12 月 1 日
フルピカフロアブル	うどんこ病	11 月 6 日
※インプレッション水和剤	うどんこ病	11 月 22 日
アニキ乳剤	ハスモンヨトウ	12 月 1 日
ダニサラバフロアブル	ハダニ類	12 月 1 日
ムシラップ	アブラムシ類	12 月 10 日、12 月 24 日
※クムラス	うどんこ病	12 月 26 日
モスピラン水溶剤	アブラムシ類	平成 23 年 2 月 28 日

※ 印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

7 今後の展望等

いちごがほ場から直接消費者の口に入る観光いちご狩りでは、安全・安心ないちごを食べたいというニーズが高くなっています。そのため、他産地・他県のいちご狩りと差別化を図り、観光客を増やすためにも、「ちばエコ農産物」の認証を受けてPRしていくことが重要です。

前述のように、組合員全員が「ちばエコ農産物」認証を受けるためには化学合成農薬をいかに削減するかが課題となっています。本栽培事例では、育苗期に防除を徹底して、本ぼに病害虫を持ち込まないようにし、定植後は「化学合成農薬に含めない農薬」をローテーション散布しながら適期防除を行いました。この結果を他の組合員と共有し、今後は組合員全員の「ちばエコ農産物」認証に挑戦していく予定です。